

「天皇機関説」事件 (集英社新書)

「天皇機関説」事件

山崎雅弘

Yamazaki Masahiro

天皇を神格化する
政治家と右翼組織が
結びつき、
事件は起こった

推薦!
半藤一利^氏
(作家)

たった半年で
日本は暗転した。

機能停止に陥った「立憲主義」「言論の自由」「個人主義」……



集英社新書

発売日: 2017年5月26日

出版: 集英社

著者: 山崎雅弘

ページ: 187

「天皇機関説」事件は、この学説を主張する憲法学者の美濃部達吉への、天皇を崇拜する退役軍人や右派政治家の攻撃が発端となっている。1935年2月に始まり、約半年にわたる「機関説」排撃運動の中で、美濃部に対する政治的な弾圧が行われただけでなく、言論や学問の自由も奪われ、立憲主義が事実上停止した。その結果、「権力の暴走」を止める安全装置が失われ、日本は破局的な戦争へと突き進む。この事件は、社会がどのように「壊れて」いくのかを物語る昭和史の重要な分岐点である。現在の政治・社会状況との類似点の多さに戦慄が走る……！ 【目次】はじめに/第一章 政治的攻撃の標的となった美濃部達吉/第二章 「天皇機関説」とは何か/第三章 美濃部を憎んだ軍人と右派の政治活動家/第四章 「国体明徴運動」と日本礼賛思想の隆盛/第五章 「天皇機関説」の排撃で失われたもの/あとがき/「天皇機関説事件」に関する年表/参考文献

<https://tezfiles.com/file/409ef05c7a598/cL4fn76Kx.pdf.rar>